

**「保健医療科学」
第 58 巻 第 2 号 予告**

特集：高齢者の住まいとケアの展望

高齢者ケア政策の展望と課題（仮題）	藤原朋子
高齢者の住まい：住宅政策からみた高齢者居住支援（仮題）	谷山拓也
地域包括ケア（仮題）	筒井孝子
地域包括ケアの実際（その 1）	
～地域包括支援センターにおける地域支援ネットワークの構築（総社市）（仮題）	総社市担当者
地域包括ケアの実際（その 2）～高齢者虐待に関する取り組み（総社市）（仮題）	総社市担当者
在宅生活のための住宅居住環境の整備（仮題）	鈴木晃
療養病床再編（仮題）	小林健一
法人経営と施設整備（仮題）	井上由起子
介護人材の確保育成（仮題）	森川美絵

編 集 後 記

本号では特集として「日本における行動科学研究—理論から実践へ」を掲載した。半世紀以上前に Behavioral Science の考え方が提唱されて以来、保健医療分野においてもさまざまな理論やモデルが提案され、実践されてきた。ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチという実践的理論、あるいは個人とそのおかれた環境と相互作用を検討するためのマルチレベルモデルなどがその代表的なものであろう。こうした理論も健康施策の場における実践での問題点を勘案して、新たなモデルや応用方法が提案され、さらに実践を通して新たな問題点が指摘されるという螺旋構造的な関係のなかで、理論の構築と応用が有機的な連携をもちながら、探索的に進められてきている。これは科学的取り組みには必要不可欠な過程であり、このような過程を経てこそ、実践の場での使用に耐えうる活きた理論や研究成果が得られるものと期待されよう。本特集では、肥満と体重コントロール、運動習慣形成、禁煙サポート、エイズ、国際保健というさまざまな分野での行動科学的取り組みについてまとめられている。これらの情報が、今後の行動科学研究と実践の一助となれば幸いである。

(山岡和枝)